

地域案内人による交流拡大事業～20年度やまがた社会貢献基金助成～

里の暮らしの知恵と技術が宝もの —里地里山の豊かな地域資源を生かした地域づくり—



NPO法人里の自然文化共育研究所・山形大学大学連携推進室
Institute of Collaborative Education for Sustainable Rural Communities, NPO

出川 真也

Shinya Degawa

多面的・公益的機能の発揮

(水涵養、農産物の供給、ふるさとの原風景(癒し)、地球温暖化防止機能.etc)

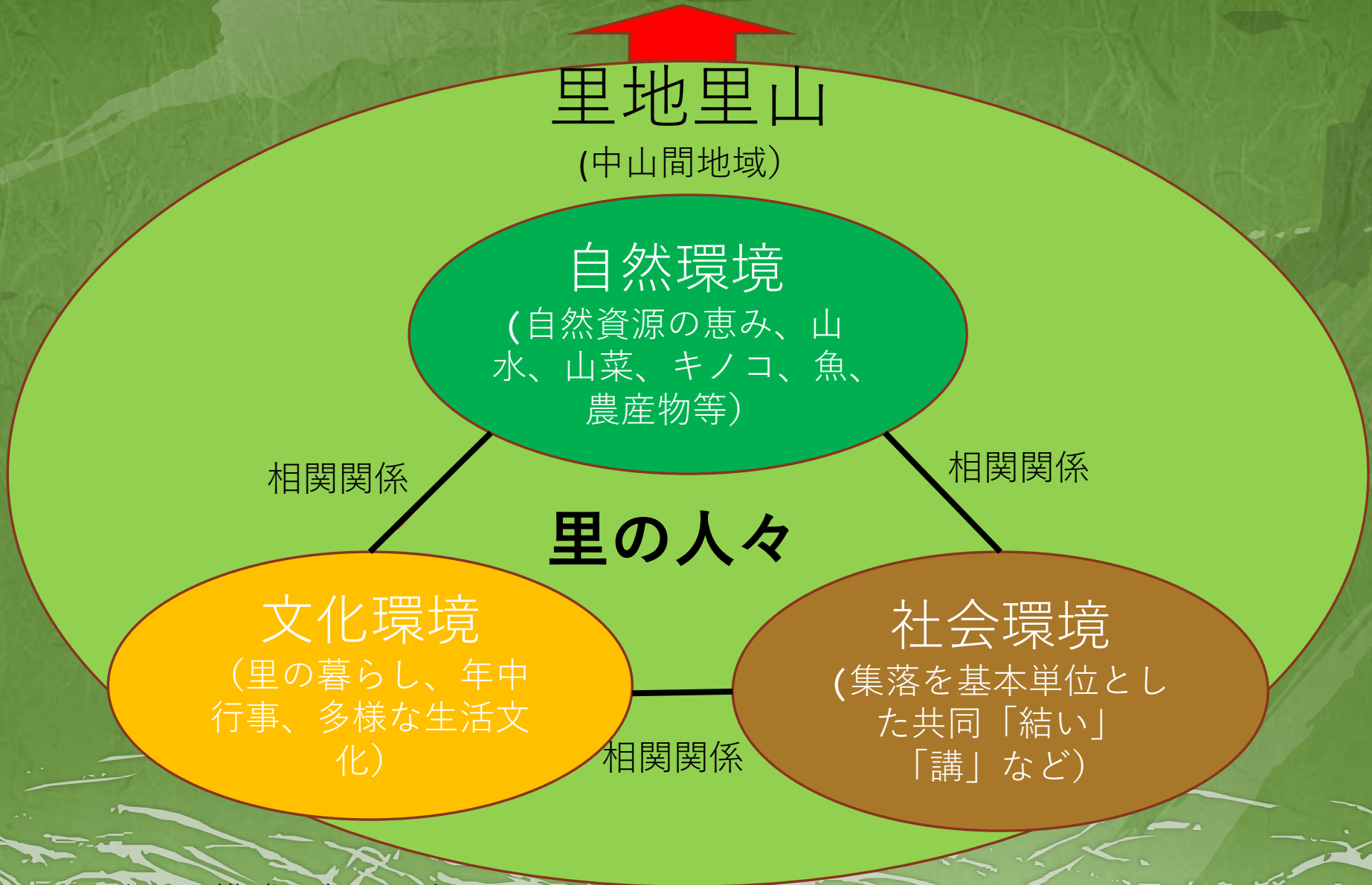


図1:里地里山構成の相関関係

地元学（地域の環境文化調査）

～まずは地域の「あるもの探し」からはじめよう～
子どもから大人まで地域住民とヨソモン参加で実施



地元学（地域の環境文化調査）

～聞いて、見て、やってみて、調べました～

子どもも大人もじいちゃん、ばあちゃんも楽しくなる



地元学で発見された水辺の生き物達



地元学で再発見された郷土料理の数々



美味しいものがたくさんある！

～山菜料理のレシピが100種類以上～



←冬に備えて瓶詰めなどにして保存。



美味しいお蕎麦もあります。

角川に長期間訪れた人は、大きくなって帰っていく？

地元学（地域の環境文化調査）

皆で発表会。調べたものを地図にまとめて今後の活動を話し合う。
集落の将来の夢を語り合いました。



子供から大人、じいちゃんばあちゃんまでみんなで語り合いました。

地元学の成果物

- 地域マップ
- 地域資源カード
- 地域の歳時記

以上からこれからの地域づくりを考える。

地元学後の展開方向の事例

農山漁村が自立的に持続可能な豊かな暮らしを形成するプロジェクトを展開する。

- 自立的な活動運営のしくみと人材育成体制の形成
- 地域環境の保全と伝承
- 地域特性を生かしたコミュニティビジネスの推進
- エコツーリズム・グリーンツーリズムの展開

祭り・行事

お手伝いツアー
ワーキング・ホリデー

仕事

山、畑、田んぼ
など

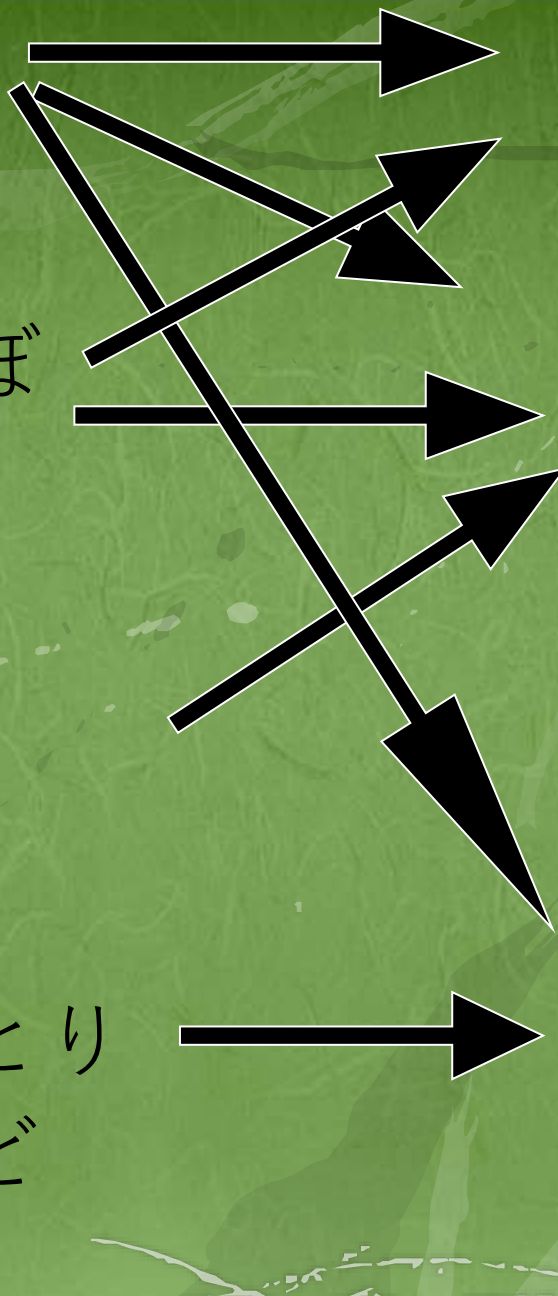
参加・体験

遊び・楽しむ

川や山での
魚釣り、泳ぎ、
山歩き、山菜とり
など

見る・眺める
聞く

地域に根ざした手作り地域産品



モデルとして～角川里の自然環境学校の事例～



角川里の自然環境学校の設立へ

最上郡戸沢村角川地区は

- 豊かな山と川に囲まれた日本の原風景を残す農山村
- 里の環境に根ざし貴重な自然や文化が息づく農山村

課題；地域の財産が受けつながられないまま廃れようとしている



角川里の自然環境学校の設立

- 地域住民が「里の先生」
地域文化（知恵や技術）を担う住民が活動の中心
- 地域の自然や文化を再発見
農山村の未来に向けて子供達に教え伝える取り組み
- 住民主体の新たな地域作りを行う地域運営学校

組織構成

角川里の自然環境学校は、
角川14集落の「里の先生」を中核に、6学校と4部局で構成。

- 山の学校
- 川の学校
- 食の教室
- 農の学校
- もの作り塾
- 民話・昔遊び塾
- 研究部（コミュニティ活動・環境保全/地域資源研究部）
- 交流部（里親委員会、ヨソモン交流会館）
- 探検部（南部里地探検隊）
- 応援部（自然学校サポーター ※主に高校生と若手社会人）

月川里の自然環境学校・

山村資源と山村の日常の暮らしを生かして、ふるさと学習活動による人材育成、産品開発、ツーリズムを開発し実践。



里親委員会の取り組み

地元もヨソモンもみんなですりの自然や文化を伝え、暮らしを共有したい



ふるさとの原風景を元気付ける取り組みは地域もヨソモンも協働でかかわりうるもの。結果として交流人口が拡大しています。

※外部参入者のことを親しみを込めてヨソモンと地元では言います。

学習旅行の受入れ

